

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	政策研究会		会議場所 全員協議会室
			担当職員 加藤 太郎
日 時	令和3年5月31日(月曜日)	開 議 午後 3時 35 分	
		閉 議 午後 4時 25 分	
出席委員	◎浅田 ○三上 ○赤坂 富谷 平本 木村 三宅 松山 小川 小松 木曾 竹田 <福井議長>		
事務局出席者	井上次長、加藤副課長、佐藤主任		
傍聴	可	市民0名	報道関係者 0名 議員 0名(一)

会 議 の 概 要

1 5 : 3 5

1 開 会

[浅田会長 開議]

[事務局副課長 日程説明・資料確認等]

2 議 題

(1) L G B T Q +に関する現状と課題等について【別紙No. 1～No. 3】

[赤坂副会長 資料説明]

<赤坂副会長>

皆さんとしっかり議論しながら進めていきたい。参考のために資料提供しているが、それぞれでまた調べていってもらいたい。

<浅田会長>

政策研究会であるので、一つずつ間違えないように自分の中で整理したうえで、現状や課題、様々なことを自ら学んでいかないと話もしっかりと挙がってこない。

(2) 今後の進め方、取組について

<浅田会長>

今後の進め方や取組については、皆さんがしっかりと協力しながら、研究を前に進めていかなければならない。今疑問に思っていることや意見などはないか。

<赤坂副会長>

漠然としていて分かりにくいのではないかと思う。何をしていくのか目的を決めな

ければならない。亀岡市でパートナーシップの宣誓をしたカップルからよい報告も聞いているが、里親制度などについての要望もある。法律が絡むことなど様々な問題があって、里親制度が整ったとしてもその後のこともある。市長と話をした中では、LGBTの当事者の方に直接会って、困っていることなどを聴いていきたい。また、パレードや祭り、催しなどいろいろな機会に出させていただいて、こういった方がいるということを市民に認知していただきたいとなった。条例制定については一旦頭から外して、どのようにすれば当事者の方がこのまちで暮らしやすくなるのか、亀岡独自でどのようなことができるのか、受け入れていくためにはどのようにすればよいのかというところから研究に入っていきたい。皆さんにはこういった現状について分かっていた上で、意見交換ができればよいのではないかと。

<三宅議員>

全く認識のない方がたくさんいる。知ってもらうためには、私たちが様々な取組や意見交換会などで発言することである。また、同和問題にも言えることであるが、正しい教育をすることが大事ではないか。教育委員会や学校への情報提供を含めて、市民、議員、市職員などみんなが正しく理解することが必要である。

<小松議員>

資料にある当事者の声を読むと、知らないことがあって、様々な驚きと現実の認識ができた。まず、研究会では当事者との意見交換などで現状を知ることから始め、その後に市民に知らしめるところにいけると思う。

<松山議員>

当事者が何に苦しんでいて、どのようなことに矛盾を感じ、違和感を覚えているのかを丁寧に知っていきたい。どこまでの範囲をどのようにしていくのかは、今後の議論の中で進めていけばよい。それぞれの年齢や立場によって苦しんでいる内容が変わってくると思うので、大変だとは思いますが全体にわたって考えていくことが大切である。条例についてはありきたりなものではなく、仕組みとして、当事者にとって本当に下支えになるような条例にしなければならない。今、亀岡にとってできることや求められることを皆さんと議論していきたい。

<竹田議員>

政策研究会であるので、メンバー全員がそれぞれ意見を持ち寄って、積極的に活動するものである。例えば、条例は議員がするのか行政がするのか、パートナーシップ宣誓制度ができたことに付随して、亀岡市での不便さを見た中で少しずつ施策に入れ込むのか、法律ならば国に意見していくのかなど、皆さんが思いをしっかりと集

約して整理する中で方向性を決め、一定の期限を決めて仕上げるのが大事である。テーマややり方など待ちの姿勢ではいけないことを共通認識したい。

<木曾議員>

今の段階ですぐに課題とはならない。我々が知らないところで、当事者の方が日常の生活、差別や偏見に苦しんで生きておられる。まずは現状を認識した上で、課題や対策を取っていく方法を考えていきたい。当事者との意見交換も大事であるし、身近なところでこれまでに我々が知ってきたことも話しながら進めていきたい。私が知り得ている中でも、女性から男性に性転換された方が長年にわたって悩まれていたこと（学校生活のこと、会社の採用のこと、戸籍の登録など）を身近なものとして感じられる。当事者の方が多くおられるとの認識をもって、条例や政策などで本来あるべき必要な部分が抜け落ちないように、議論を深めていく必要がある。

<富谷議員>

今まで自分の生活の中ではなかったこともあり知識が薄いと思うが、当事者の方から様々な実体験を聞いて課題を検討していくことで、研究会として何ができるのかを考えていきたい。研究会に臨む姿勢として自らしっかりと勉強していく。亀岡市にとってどのような課題があるのかを追及していった上での条例制定や政策提言であると思う。そういった議論ができる場として進めていただきたい。

<木曾議員>

今、中学校の制服は女性がズボンを選択することができる。身近なところでも少しずつ変わってきている。過去を遡ると、亀岡市議会でも議員の呼び方が「何々君」から「何々議員」に変わった。男女の問題を取り挙げて、議員自らが気づいて変えてきたものである。もっと身近な部分で我々が気づいていって内容を点検した方がよいと思う。そしていろいろな方の話を聞いていくことも大事である。

<小川議員>

LGBTQ+に関しては範囲が広い。条例や制度などを作ってもどのように運用していくのが重要である。当事者の方が感じている生きづらさや悩みなどを自らがしっかり認識して、政策研究会で議論しながら範囲を絞っていけばよいと思う。

<平本議員>

木曾議員のように、身近に相談に乗ってこられた議員もおられるが、私は残念ながらそういった機会がなく知識や見識がまだまだ低いので、現状がどうなのかを把握しながら政策研究会で議論を深めていきたい。意見交換の機会もぜひ期待している。

<木村議員>

パートナーシップを宣誓したカップルが一組しか出ていないということは、まだ制度として認知されていないのか、宣誓しにくい環境があるのか。まずは現状把握の確認が必要であり、当事者の悩みごとや要望などを聞く中で、政策研究会としてどのようなことができるのか、最終目的は何にするのかを決めていかなければならない。

<赤坂副会長>

最終的にはオープンにできる環境づくりである。居場所をどう作っていくのか。そこからいろいろなものが出てくると思う。当事者の方に来てもらいながら、また、学校の先生や企業の方などとの意見交換も必要ではないかと思う。今、国会でも法整備について話題になっているが、皆さんもいろいろと調べていただく中で、今日のように意見を出していくと、誰もが住みやすいようにするためには最終的に何をしていくのかが出てくる。

<三上副会長>

竹田議員がおっしゃったことが一番言いたかったことである。委員会とは違う政策研究会として、会派を越えて自覚的に集まったメンバーであるので、研究会のみんながしっかりと意見を持ち寄って、事務局に任せることなく進めていきたい。また、LGBTQ+に関する政策研究ではあるが、広く言えばジェンダーでもあり、市民みんなで共有して共通理解していくことが、市の政策として進めていく方向につながるものである。

<木曾議員>

気づきから入って考えていかなければ、広く市民に理解いただけるような形にならない。

<浅田会長>

メンバー全員から意見をいただいた。身近な現状についてそれぞれが把握して共通認識を持ち、オープンにできる環境づくりが一番大切であるとの方向として研究を進めていきたい。研究会では皆さんが情報収集したことを発言する場を作っていて、活発に意見交換をしながら議論を積み重ねていきたい。

<赤坂副会長>

亀岡で研究会をしていることの発信も必要である。研究しながら同時にPRもしていったら、亀岡が変わりそうだと当事者の方が期待を持てるような取組にしていきたい。次回の研究会には当事者の方に来てもらうので、意見交換していただきたい。

<浅田会長>

身近なことに気づいていくことが大切である。皆さんがそれぞれ認識を深めて研究を進めていただきたい。

3 その他

次回の日程について

<浅田会長>

次回は、6月議会中となるが、6月18日（金）午後1時30分から、当事者との意見交換の場として開催することで決定する。意見交換の後には、政策研究会の進め方や取組について協議していくこととする。

散会 16：25